

無菌治療部

1. スタッフ

部長(教授)	室井 一男(兼)
医員(教授)	小澤 敬也(兼)
	桃井真理子(兼)
(准教授)	永井 正(兼)
	郡司 勇治(兼)
	森本 哲(兼)
(講師)	森 政樹(兼)
	尾崎 勝俊(兼)
	鈴木 隆浩(兼)
(助教)	松山 智洋(兼)
	上田 真寿(兼)
	大嶺 謙(兼)
病院助教	山本 千鶴(兼、派遣)
	佐藤 一也(兼)
	翁 家國(兼)
	藤原慎一郎(兼)
	畑野かおる(兼、派遣)
シニアレジデント	7名(兼)

2. 診療部の特徴

平成16(2004)年9月、クラス100清浄度の病室4床とクラス10000清浄度の病室4床を有する無菌病棟が本院本館4階南に開棟し、同年10月に無菌病棟を統轄管理する無菌治療部が発足した。無菌治療部は、高度な無菌管理が必要な患者であればどの診療科も利用できる中央施設部門であり、血液科/輸血・細胞移植部/小児科が連携して診療にあたっている。当部で行われている造血幹細胞の実際については、単行本の「医師と看護師のための造血幹細胞移植」(小澤敬也監修、室井一男・神田貴代編集、医薬ジャーナル社2007年7月発行)に詳しく述べられている。

認定施設

非血縁者間骨髄移植・採取認定施設
日本さい帯血バンクネットワーク移植認定施設

3. 診療実績

①移植種類のべ患者数	
年間総数	35例
血縁者骨髄移植	2例
非血縁者骨髄移植	16例
血縁者末梢血幹細胞移植	3例
非血縁者臍帯血移植	6例
自家末梢血幹細胞移植	8例

②移植患者の疾患内訳

急性骨髄性白血病	16例
急性リンパ性白血病	5例
骨髄異形成症候群	3例
悪性リンパ腫	10例
多発性骨髄腫	1例

③移植時の疾患の状態

急性骨髄性白血病の寛解期	7例
急性骨髄性白血病の非寛解期	9例
急性リンパ性白血病の寛解期	2例
急性リンパ性白血病の非寛解期	3例
骨髄異形成症候群の非寛解期	3例
悪性リンパ腫の寛解期	3例
悪性リンパ腫の非寛解期	7例
多発性骨髄腫の非寛解期	1例

④生存率

寛解期に移植	12例/12例
非寛解期に移植	11例/23例

⑤病床稼働率など

平成20年12月末分の診療実績では、在院患者数1,331人、1日平均患者数5人、病床稼働率61.8%、平均在院日数49.3日であった。利用した診療科は、血液科が100%であった。造血幹細胞移植患者以外に、高度な無菌管理を必要とし無菌加算を算定できる急性白血病に対する化学療法を受ける患者などを受け入れた。

4. 事業計画・来年の目標

無菌病棟が開棟し4年が経過したが、血液科以外に無菌病棟を利用した診療科はない。来年度は、小児科の造血幹細胞移植患者を積極的に受け入れる予定である。

造血幹細胞移植のデータは、日本造血細胞移植学会が中心となって、全ての造血幹細胞移植例を本学会に登録するデータ一元化管理が行われている。当部の移植データも、担当者を決めデータ一元化管理を行っている。一元管理されたデータを解析し、当部で行われた造血幹細胞移植の疾患別生存率や無病生存率を出し、今後の移植成績の向上に繋げる。

造血幹細胞移植は、日常診療と普及してきたが、様々な未解決の問題が存在する。未解決の問題に対しては、臨床試験に参加または主導し、問題を明らかにする。

造血幹細胞移植を受ける患者が増えるにつれて、患者家族会設立の必要性が感じられる。患者家族会設立が可能か検討する。

現在、当部のスタッフは他の診療科・部が本務で当部が兼務である。今後、当部の発展と責任ある運営を考えると、当部が本務のスタッフが必要と思われ人員増を要望する。